

「市民活動プラザ外部協議委員会」議事録

平成 25 年度 第 2 回（第 5 回）市民活動プラザ外部協議委員会の会議結果について

平成 25 年 11 月 8 日に開催しました協議委員会の概要は下記の通りです。

記

- ◆ 開催日： 平成 25 年 11 月 8 日（金）19：00～20：50
- ◆ 会 場： i スクエアビル 5 階 大会議室
- ◆ 出席委員：
 - (財)佐賀銀行 文化財団 事務局長 多良淳二 様
 - NTT 西日本佐賀支店 企画総務課 企画総務課長 橋内健 様
 - 西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科 准教授 山田力也 様
 - とす市民活動ネットワーク 事務局長 木村利予 様
 - 佐賀大学（プラザ利用者代表） 日隈諒 様
- ◆ 欠席委員： なし
- ◆ 出席者：
 - 佐賀市 市民活動推進課 係長 寺田千景
 - 佐賀市 市民活動推進課 主任 井本有香
 - 指定管理者 市民活動プラザ プラザ長 内川実佐子
 - 指定管理者 市民活動プラザ 副プラザ長 横尾隆登
 - 指定管理者 市民活動プラザ 下田洋平
 - 指定管理者 市民活動プラザ 高見博
 - 指定管理者 市民活動プラザ 濱野雄一郎
 - 指定管理者 市民活動プラザ 黒田香織
- ◆ 議題：
 - 1.平成 25 年度上半期運営管理報告
 - 2.平成 25 年度下半期運営管理について
 - 3.プラザ移転について
- ◆ 委員長総評： 多良委員長
- ◆ その他： 次回開催予定など
- ◆ 傍聴者： 0 名
- ◆ 開催内容：

1. あいさつ

- ①開会（指定管理者 濱野）

- ・平成 25 年度 第 1 回目 市民活動プラザ外部協議委員会開会宣言

②事務局からのあいさつ（指定管理者 プラザ長）

- ・プラザ外部協議委員会へ出席に対してのお礼
- ・新たな外部協議委員の紹介（橋内様、日隈様 紹介とあいさつ）
- ・次期指定管理者についての報告（佐賀市市民活動推進課担当係長より）
- ・外部協議委員会の目的の確認

2. 委員長のあいさつ（多良委員長）

・前回 5 月に開催した外部協議委員会で委員からの意見や提案などについて、指定管理者が取組んだ結果、うまくいったこと、課題として残ったことなど含めみんなで見聞交換できればと思う。

指定管理最後の期間である下半期について、また次期指定管理者へ移行する時の課題など委員から提言等いただくようお願いする。

3. 前回運営外部協議委員会報告（指定管理者 下田）

- ・前回の協議委員会で、委員から提案いただいたことや佐賀市からの指摘について報告。
- ・議事録に沿って報告する。
- ・資料-3 の外部協議委員会「課題と対策」にどのように対処したなどまとめている。

①（前回議事録 P4）

佐賀市から、市民活動団体の PR コーナーや助成金などの掲示物について「情報の更新や見やすさ分かりやすさについて改善が必要」という指摘があった。

②（前回議事録 P12）

委員から、利用者への情報提供の仕方について、「利用者が欲しい情報をゲーム感覚で入手できるようにできないか」という提案を受けた。

③佐賀市から「自主事業については、全体的に進んでいない状況なので、計画的にすすめて欲しい」という指摘があった。

④（前回議事録 P8）

委員から、自主事業のセンターオブセンターについて、「意見交換会に中間支援組織を集める工夫が必要」との意見を受けた。

⑤（前回議事録 P8～P11）

委員から、「自主事業の企業・財団等の社会貢献活動への企画・事業実施の支援については企業と市民活動団体について活動分野別にリスト化することが必要」という提案と、「佐賀市が持っている企業情報を利用して、情報を流してはどうか」という提案があった。

以上、前回の協議委員会の報告とする。

4. 議事（ここから多良委員長の進行）

委員長：

先ほど指定管理者から前回の報告があったように、指定管理者は委員からや佐賀市からの提案や指摘を受け様々な課題を解決するよう努力してきたと思う。

そこで、佐賀市と指定管理者が評価表に沿って、平成 25 年度上半期について振り返りを行った報告を受けた後に、委員から運営に対する指摘や意見、提案をいただきたい。

1) 平成 25 年度上半期運営管理について

① 平成 25 年度上半期運営管理実施報告（指定管理者から報告）

<資料-2 四半期評価表>

概ね施設管理業務は、利用者に満足してもらい実施できたと思うが、まだ「窓口で利用者をお待たせする」などの状況も見受けられるので、職員のシフトを見直し利用者を待たせないよう努める。

まだ自主事業が思うように進んでいないことについてはのちほど、自主事業を抜き出した報告シート(資料-4 平成 25 年度-自主事業-四半期報告シート)に沿って報告する。

平成 25 年度上半期は、3 年目の指定管理者として利用者へ対して落ち着いた対応ができていると思う。利用者の満足度を向上させるために、職員全員が機器操作についても日々学んでいる。

窓口対応についても今年度は、接遇の講師として（佐賀県庁、さが元気ひろばの総合受付担当者）を招き「おじぎ」から「話し方」までの研修を実施した。

市民活動団体支援に関しても、イベント開催の支援から団体の PR 支援まで対応できていると思う。このまま今年度下半期も、利用者の満足度向上と市民活動団体への支援を続けていくように努める。

それと下半期でプラザ移転に関してできる限り、利用者への広報を心がけるよう努める。

<資料-3 外部協議委員からの「課題と改善策」について>

◆利用者への情報提供について

(課題)

利用者が欲しい情報をゲーム感覚で入手できるようにできないかと委員からコメントをいただいた。

(対策・対応)

ゲーム感覚という対応はできなかったが、いつでも情報が簡単に入手できるように facebook の投稿数を増やした。ホームページでは、見出しに●や◇■などを付けて情報を分野別にして、欲しい情報を見つけやすいようにした。

◆掲示物について

(課題)

更新がされていない、情報の貼り出しは見やすさや分かりやすさの改善が必要と佐賀市からコメントがあった。

(対策・対応)

現在、市民活動団体の PR ポストを作成して情報発信の手伝いと、掲示物を貼り出すパネル（パーテーション）に見出しを付けた。

情報更新も以前は月に 1 回程度だったが、毎週更新また新情報が入った場合は随時更新するようにしている。

<資料-4 自主事業シート>

◆自主事業について

3. センターオブセンター

(課題)

「中間支援組織の意見交換会」に集まってもらう工夫が必要である。

(対策・対応)

アンケートの準備ができたので 10 月末に第 1 回目のアンケートを実施した。アンケートで開催日などを調整していく予定。

4. 企業・財団等への社会貢献活動支援

(課題)

企業リストや市民活動団体リストを活動分野別にする。

(対策・対応)

企業リストは委員へ回覧した通り進めている。

団体については団体 PR を一枚のチラシにして作成しているので、それを利用してリスト化する予定。

② 佐賀市からのコメント

今期 3 年間の指定管理業務は、施設の管理・運営を中心的な業務として位置づけ実施してきた。そこを踏まえ、平成 25 年度上半期は、全体として「概ねできた」と評価している。

【参考】指定管理と別に委託している市民活動プラザソフト事業

- 「相談支援及び情報収集発信事業」…市民活動等に関する相談を受け付け、市民活動等に関する情報を収集し発信する。
- 「人材育成事業」…佐賀市の市民活動活性化のために、必要な人材育成事業を行う。
- 「交流連携事業」…市民活動団体、市民、企業、行政などの異なるセクターが情報交換や意見交換ができる機会や、異なるセクター、分野での交流がすすむ機会を提供する。

【評価の理由】

施設の管理運営に関しては、特に大きなトラブルもなく全般的に問題なく実施でき

た。また日々の細かい業務に関しては、スタッフ間で協力しながらきちんとしてきている。そのため、「平成25年度市民活動プラザ運営評価表」の中で、指定管理者と市の評価と大きく違うところは、特にない。

【上半期のまとめ】

今期の指定管理の中心業務として位置づけた施設管理に関しては、指定管理をはじめた当初から、指定管理者と佐賀市で日々たくさんの協議を重ねながらいろいろな改善策を実施してきたことにより、だんだん使いやすいようになってきたので、施設の運営・管理については、残りの期間もこれまで同様にがんばってほしい。

一方で、指定管理者自ら提案した自主事業に関しては、まだやり残しがたくさんあるので、スピードをあげて、最後までしっかりやりとげるよう努力をしてほしい。

【下半期に望むこと】

指定管理も残りあと半年。下半期は、今期の指定管理まとめの時期であることから、新しいことに着手するのではなく、提案内容や事業計画を再度スタッフ全員で共有し、これまでの2年半のふりかえりの時期としてほしい。

良かった部分はさらに伸ばし、反省する部分は原因と改善策を全員でしっかりと考えて、今後につなげてほしい。

【中間支援組織として望むこと】

市民活動プラザは「市民活動支援のための拠点施設」として建てられたものであること、指定管理者が中間支援組織であることから、現在できている日々の業務をそのまま継続するだけでなく、今後は市民活動を支援する「中間支援組織」であることを再度認識して業務にあたってほしい。また佐賀市の市民活動の現況に対して「中間支援組織」として、そのネットワークや市民活動に対するスタッフの専門性などを活かせるような取り組みができるように、今後のことを考えてほしい。

③ 協議（委員からの指摘、意見、提案など）

委員長：

佐賀市と指定管理者から、平成25年度上半期の運営について報告を受けた。まずは、報告に対しての質問また気づきがあればお願いします。

委員：

Facebookはいつから始めたのか？

指定管理者：

前回の外部協議委員会あとの6月頃から始めた。

委員：

Facebookの投稿数を増やすなどの努力とあるが、具体的にどのようなことをしたの

か知りたい。

指定管理者：

情報をたくさん発信した。プラザに持ちこまれたチラシ情報、収集したイベント・講習会情報などを発信している。

委員：

プラザの facebook は、どこを見れば分かるのか？佐賀市のホームページに facebook をやっているという情報が出ているのか？まずは facebook で情報を発信していることを知ってもらわないと、見てくれない状況ではないのか。

指定管理者：

現在は、職員の facebook のつながりから見ていただいている。Facebook をやっているということの広報は、できていないと思われるのでアドバイスとして受け止めた。

委員長：

委員からのアドバイスを受けて、facebook をプラザがやっていることと、様々な情報が手に入るという PR が足りなかったことを、指定管理者も認識できたと思うので広報をすすめてほしい。ここで、この分野に詳しい委員に助言をもらえればと思う。

委員：

現実的かは分からないが「市報」に載せるなど検討してはどうか。今は facebook のバナーはメジャーになってきているので、市報に載せるだけでも興味をもたれると思う。

指定管理者：

今後、月刊広報紙やホームページのトップページにバナーを載せる。
また今後は、facebook をやっていること自体を今以上に宣伝して、様々な情報を発信していることの PR も含め広報していく。

委員：

プラザ利用者として、窓口の方のあいさつで、来館しやすさを感じている。接遇の研修も、自分たち（利用者）が足を運びやすい環境を作るために実施されていることが受け取れる。

委員：

佐賀市からのコメントの中にあっただように、中間支援組織としての活動が運営評価の中に見て取れない。佐賀市からのコメントを受けて指定管理者はどのように思っ

いるか聞きたい。

指定管理者：

平成 23 年度は、管理業務だけでも手いっぱいであり構わず業務を行った。24 年度は、問題なく管理業務は行えていると報告をしてきた。今年度、やっと自分たち団体が中間支援組織ということ意識（意識するものではなく、もともと中間支援組織の使命として活動することが当然だが）して、管理業務の中でというより相談支援業務、情報収集・発信事業と一緒に市民活動団体支援がどうすればできるか、市民活動団体同士のマッチングや企業と団体の結びつけはどうすればいいかなど模索中である。今現在は、市民活動団体の困りごとなどの聞き取りしかできていない。

市民活動団体の困りごとの例としては、

①参加したいイベント、講習会などたくさんあるが、自団体が開催するイベント日と重なり参加できないことが多々ある。

②イベント、講習会、講演会など開催するとき集客ができない。

などをよく聞く。

委員：

佐賀市へ質問する。評価表の中に職員に対して NPO 職員としてのスキルアップを期待するという記載があるが、どのような意図があつてのコメントなのか。

佐賀市：

市民活動団体の困りごとに対して、相談支援員だけでなくすべての職員が中間支援組織として市民活動団体の支援ができるようになってほしい。

委員：

佐賀市がどのような期待をされているかを聞いたかった。

プラザは次年度、街なかの商業施設で運営することになるが、その場合、地区の活性化も担わなければならない。自団体（委員の団体）も商業施設で活動しているので、商業施設への集客に貢献しなくてはならない問題を抱えている。そのためにテナント会に参加しイベント企画を提案している。自センターが抱えている団体の事業を活用し、企業と市民活動団体のコラボレーションも考え、社会貢献、企業貢献なども視野に入れながら活動をしている。今後は市民活動プラザと情報交換をして、お互いにアイデアを出し合いながら地域活性化へ向けて貢献できればと思う。

委員長：

委員から意見、提案をいただいたのでこれからの活動運営に役立てるようにしてほしい。

2) 平成 25 年度下半期運営管理について

① 平成 25 年度下半期運営管理実施（指定管理者から報告）

<資料-5 業務スケジュール>

（項目）利用促進-利用者懇談会等実施

・第 1 回目の開催は 9 月を予定していたが、10/18 の実施となった。利用者懇談会等の実施は、市民活動団体が活動しやすい環境をつくるために、どうすれば良いのかななどの意見を聞き取ることが目的であったが、今回はゲリラ的に利用者を集めて実施したため、参加者がほぼ高校生だった。

内容は「市民活動」を学生に知ってもらい、「ボランティアとは」など、身近な市民活動のすすめを目的とし、実際に市民活動をしている大学生にファシリテーターをしてもらい実施した。開催目的という点で考えると、今回の参加者から市民活動で利用しやすい環境づくりという情報のくみ取りはできていない。

そこで下半期に、市民活動団体が集まるイベントの後や「おもしろ塾」で集まられている方々から聞き取りなどをして利用者意見交換会を考え取り組む。

（項目）職員育成

・9/17 に入った黒田に対して、一日でも早く各研修の受講ができるように対応する。

（項目）自主事業

・できていない項目を計画的にすすめる。

・公共の担い手育成講座開催について、「チカラット」参加団体に対して開催計画と記載しているが、その後の市民活動団体への聞き取りと「交流連携事業」で開催する「プレゼンコンテスト」への参加呼び掛けをしていた中で、団体から PR ポスター展を実施するなら、ポスター作成の指導をしてほしいと要望があった。団体が勉強したいという内容をくみ取り、計画を立て直し実施する。

スケジュールについては以上だが、指定管理期間があと数ヶ月で終わることになる。残りの期間、利用者に満足してもらい、スケジュールとは別に今まで着手できなかった市民活動団体支援につなげる団体と団体のパイプ役を精一杯努めていく。

② 質疑応答

委員長：

指定管理者から、平成 25 年度下半期の運営管理について説明があった。委員の意見や質問をお願いしたい。

委員：

- ① 「団体と団体をつなぐ」
- ② 「団体に聞き取りをしたところ、イベント時の集客

に困っている現状がある」という二つの報告があった。そこで団体と団体が一緒にやることによって集客が増えるということは分かるが、団体は一緒にやりたいという気持ちはあるのか。

指定管理者：

一緒にやりたいと思っている団体はある。実際にレターケースの利用団体で「同じような活動をしている団体を紹介してほしい」「イベントを一緒にやってくれる人はいないか」などの声がある。団体同士がつながりたいのか、同じような活動をしている団体に手伝ってほしいだけなのかはくみ取れていない。

団体と団体をつなぐことで全てがうまくいくことではないが、人員不足や資金不足など市民活動団体が活動していく中で抱えている課題解決の支援にならないか相談支援責任者と検討している。

委員：

取り組もうとしている「パイプ役」は、日本全国の中で実践して実績を上げている中間支援組織があるのか。

指定管理者：

環境フェスタを見に行った時に、環境系の市民活動団体が多数参加していた。同じ目的を持った団体が集まり、万という人数になったのを目の当たりにして、私たちも団体と団体をつないでいけば成果が出ると確信した。

また、質問にあったモデル（目指す）とする中間支援組織があるのではない。環境フェスタを見に行った時に、中間支援組織がこのようなイベントを企画・運営すべきであると思った。

委員：

どこの主導で開催されたイベントなのか。

指定管理者：

主催は企業だったと思う。市民活動団体が企画・運営していた。（※1）

※1：イベント名：「2013 さが環境フェスティバル」

主催：市民、事業所、団体、佐賀市で組織した「さが環境コラボ」

事務局：「特定非営利活動法人 温暖化防止ネット」

委員：

行政から委託されている団体で、そのような活動を主導でやっているところはないか。

指定管理者：

例えば、福岡の「ふくおかNPOセンター」が実施している「かつぎてけいかく」(※2)などある。全国にはもっと様々な団体が活動しているので、これからは先進事例などを勉強して、市民活動団体の支援に取り組むようにする。

※2：『かつぎて』とは、企業人・高齢者・学生などさまざまな人たちが、それぞれのチカラ（知識や経験）を持ち寄ってNPOを支援する、新しいボランティアのこと。（「ふくおかかつぎて けいかく」HPから抜粋）福岡版プロボノ活動推進プロジェクトであり、「特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター」は事務局である。

よって、委員からの質問に対して「ふくおかNPOセンター」「かつぎてけいかく」と回答しているが回答者の認識の誤りであり、「かつぎてけいかく」は環境フェスタのようなイベントではない。

委員：

先進事例の中には、マニュアル化しているところもあると思う。その中には、団体と団体を結びつける秘密の接着剤のようなヒントがあるかもしれない。手探りで一から創り出すより、まずは先進事例を調査して「佐賀版のマニュアル」に書き換えていくような感覚で早目に取り組んでほしい。

委員：

Facebookでグループを作成してイベント情報、ボランティア情報などを流すようにすればどうか。掲示板的な役割をするので、プラザを介さずに団体同士でつながることができるので、活用してみてもどうか。

委員：

企業が社会貢献として、「清掃活動」がしたい、「地域環境」の何かをしたいなど思い市民活動団体を紹介してほしい時に、どこを尋ね見れば分かるのか。

指定管理者：

県内に10以上の中間支援組織があるので、そこに尋ねてもらえば分かる。私たちも佐賀市の中間支援組織として広報しているが、企業からの申し出を待つ受け身体制である。市民活動プラザへ来れば「活動（ボランティア）の紹介」し、つないでくれるということを確認してもらえるように企業へ向けて広報することを考えている。

この活動（企業と市民活動をつないでボランティア活動）を実際にされている委員に伺いたい。どのようにして企業に広報されているのか教えてほしい。

委員：

実際に明日も、企業・組合・市民活動団体などと一緒に清掃活動をする。当団体は、

Facebook、ホームページなどインターネット環境を駆使して「場所」「日時」などを広報している。現在、鳥栖市でセンター構えていることが企業にも知られてきたので、「市民活動団体に対して寄付をしたい」などの相談がくるようになった。

広報の方法としては「市報」の活用、ケーブルTV、市の広報担当記者クラブへは常に情報を投げる（プレスリリース）など、利用できるものは何でも利用している。また市内の不動産会社に団体のリーフレット、広報紙など置いてもらえるように活動もしている。（理由：春になると移動などの引っ越しで、最初に向かう先は不動産会社である）

プラザも公共の施設だけでなく不動産会社や企業（商業施設等）へ「広報誌」や「リーフレット」を置いてもらえるようにした方が良い。

委員長：

どのようにして情報を発信するかを今一度考えてほしい。

委員からアドバイスがあったように、facebookの掲示板を利用し市民活動団体が自ら書き込みができるようにするといふ。

佐賀県の「CSOポータル」など構築できているツールも利用するといふ。

また、プラザに登録されている300程（※3）の市民活動団体にアドレス登録をすすめ、情報発信するなど考える。

企業に対しては、リストを作成する中で企業広報窓口等に連絡する際、アドレス登録までお願いして「ボランティア募集」などの情報を流すようにするといふ。（現在企業は、社会貢献活動、CSR活動、職員の積極的な社会参加など、求められている時代の背景がある）

※3：現在、市民活動プラザに登録されている利用登録団体は10月末現在1063団体、「市民活動団体ガイドブック2013」掲載団体は333団体である。

3) プラザ移転について（佐賀市からの報告）

委員長：

平成26年4月に、市民活動プラザが移転する。これから指定管理者も残された期間での「移転先」の周知、また新たなビルでの会議室予約受け付けなど始める時期と聞いている。

まずは、佐賀市から移転先の情報を聞き、指定管理者からはプラザ利用者から何か聞き取りをしたことを報告してもらおう。

佐賀市：

<資料-新プラザ平面図と新たなプラザ条例>

【佐賀市の方針】

佐賀の中心市街地活性化の目的で、公共施設を中心市街地に集めてまちづくりをす

すめることが佐賀市の大きな方針である。

- ・ 佐賀商工ビルに佐賀市の下記の4つが入居する。
 - ①市民活動を支援する組織ということで市民活動推進する機能
 - ②市民活動プラザ
 - ③佐賀市の全校区の地域コミュニティをつくる地域コミュニティ推進機能
 - ④公民館支援機能
- ・ ①③④は7階の行政執務室へ入居する。
- ・ 志縁、地縁に関わらず佐賀市が支援していく。
- ・ ②の市民活動プラザも7階に入居（7階と4階に会議室）
 1. 広さは、現在の3階部分の9割程度
 2. 親子交流サロン、ワーキングルーム、ロッカー、活動共同スペースなど市民活動に必要なスペースは問題なく利用できるように準備している
 3. 駐車場は共有だが、敷地内70台と提携40台（計110台）確保している
 4. 駐車券の処理は、現在と変わる予定（会議室利用時間に合わせて駐車券を配布する方式になるので、現在のように全て無料にすることはできない）

※ビル建設中のため、詳しいことは決まっていない。

※決定したこと、分かったことなど利用者へ伝えられることは、現在のプラザから発信する（現在も、iスクエアビル3Fに「佐賀商工ビル」について掲示している）

指定管理者：

利用者からは、駐車場の心配、会議室（中会議室）の利用可能人数が違うが料金は同額なのかなどの声が聞こえてきたが、話し合っ解決できる案件ではない。

委員からいただきたいアドバイスは、移転周知の件であった。先ほど、委員から「周知」「広報」などのアドバイスをもらったので、「プラザの周知」「移転の周知」などPR先のアドバイスがほしい。

委員長：

他の委員に伺う前に、指定管理者がPR先に考えているところがあれば教えてほしい。

指定管理者：

残された指定期間の中で考えている周知方法

- ①現在の来館者（iスクエアビル来館者）へのPRを行う。
- ②広報紙配布先に新しいプラザの紹介を置いてもらう。
- ③佐賀商工ビルに入居される企業、団体への周知を図る。
- ④ビル周辺の店舗などへの周知（チラシ配布）を行う。

委員：

利用者を広げることと同時に、利用者が満足しているのかを考える必要がある。現在の利用者が満足していれば広げても大丈夫と思うが、満足が得られていないまま利用者を広げても不満につながると思う。

また団体と団体をつなげることをすすめる実績を作っていくという話があったがその前に、中間支援組織として市民活動の支援、市民の社会問題の解決支援など考える方が先ではないかと思う。

質問の趣旨と違うが、伝えておく必要があると思う。

委員：

NTT と同じビルから商業施設に移転することで、来館される方も変わるかと思われる。3年ごとに引っ越しを重ねている経験から、移転して同じことをしたくても環境が変われば、また一からやり直さなければならない。3回の移転の状況を話すと、

1. 公共の建物の中のセンター運営

①多かった来館者：市民活動団体

②多かった相談内容：NPOを立ち上げたいなど

2. 商業施設（大型スーパー）の中のセンター運営

①多かった来館者：一般市民

②多かった相談内容：住民票が取りたい

職務経歴書・履歴書が作りたい。（ハローワークからの紹介）
市民活動にあまり関係がない相談（示談交渉、帰化、遺産相続など）

3. 駅前の商業施設の中のセンター運営

①多かった来館者：利用者の8割が市民活動団体、企業も増加した。

②多かった相談内容：男性向きボランティアの相談

地域課題の解決のための相談（引きこもりなど）

企業による市民活動団体の活動内容の照会

以上のように、センターの場所により運営上の内容が全く違ってくる。それを踏まえシミュレーションをして、どのように対応するかなど想定しておく必要がある。

委員長：

移転についての貴重な情報を委員からもらった。今後も委員から情報をいただけるようにコミュニケーションを取る。

想定される項目を、Q&Aなどにまとめ職員（窓口パート含む）全員で共有することが大事である。

利用者の代表（の委員）として、移転についてどう思うか教えてほしい。

委員：

大学から近くなることと、自分自身活動拠点が近くなるので利用しやすくなる。移転先はマンションなど多い地域なので主婦層が来館しやすい環境をつくり、主婦が利用するうちに市民活動へ移行して活動につながればいいのではと思った。

委員長：

鹿児島県の百貨店が、空きテナントを市民活動団体の活動スペースとして利用した。その結果、今まで買い物のために来ていた人々が市民活動に興味を持ち市民活動に参加する、また市民活動のために来ていた人が帰りに百貨店で買い物するなど相乗効果が生まれた。

プラザの移転先が商工ビルということから、ビルに入居される企業・団体またはビル周辺の主婦層や佐賀大学が運営している「ゆつつら一と館」などとつながり連携していくと新たな展開ができると思う。

現在の利用者満足度を今一度見直し、今のままでいいのか、不足があればどの部分なのかを課題として見つける。また場所が移ることで改善できること、逆に移転することで出来なくなることなども、職員で洗い出し整理する必要がある。

現在の利用者が移転後も満足して利用できることが第一である。新たな利用者の拡大はその次で野取り組みであると思う。

5. 委員長総評

多良委員長：

- ・四半期評価表について佐賀市と指定管理者の評価で大きな違いもなく、運営としては概ね良好であったと報告があった。自主事業だけは「△」となっていたので、残りの期間で計画的にすすめるようにしてほしい。

- ・相談業務で受け付けた案件のデータ化をしてほしい。そしてそれを資料として残してほしい。

- ・不足と思う部分は、中間支援としての役割（情報収集・発信、つなぎ手、地域課題解決などの役割）の報告が具体的に見えない。「やりたいこと」「計画中」などは報告に記載してあるが、実際に何をしたか、何をしたいかが分からない。

- ・先進事例の情報収集も具体的な報告がない。イメージだけでなく情報を具体化して良い事例を活用し整理して「佐賀版のマニュアル」を構築できるように取り組んでほしい。

- ・情報発信は、facebook など IT を利用し広げてほしい。

- ・企業が社会貢献したいときに、どこを見れば（尋ねれば）市民活動団体とつないでもらえるのかわからない。市民活動団体の手助けがほしいと思う立場と、参加したい（手伝いたい）企業側のニーズをくみ取ったマッチングができていない。

（解決するためには）

- ①掲示板を利用し欲しい情報を取りにいける状況をつくる

②登録企業への情報発信を行う

③以前から提案していた「チャート式の検索」ソフトを構築する

(チャート式の検索ができるようになれば)

①活動のジャンル別に検索できる

②ボランティアをしたい人からも、募集している団体からも双方向から検索できる

③団体がイベント時に人材がほしいと発信すると、提供できる企業からアクセスできることでつながりができる

このような効果が期待できると思うので、佐賀県と佐賀市でいっしょに構築できないかと思う。アバンセ、社会福祉協議会、プラザも一本化した情報収集・発信ができればと思う。県の県民協働課が「CSO ポータル」をやっているの、逆に佐賀市から提案し連携してできないか考えてほしい。

- ・移転については、新たな層の確保とつなげることを課題として取り組んでほしい。
- ・既存の団体の満足度を見直し、移転に伴い課題を整理してほしい。
- ・事前にシミュレーションを行い移転に備えてほしい。

6. 連絡事項

事務局：

委員の皆さまに、本日協議いただいたお礼。

最後にプラザ職員の入替があったので紹介する。9月末で早田が定年退職した。その代わり新たなメンバーが入ったので自己紹介をする。

(黒田)

9月17日より指定管理者の一員となった黒田です。(自己紹介)

3年間の指定管理者としては、あと少しで終わりとなるが最後まで、また移転後も利用者に満足して利用してもらえるように、私も微力だが努めたいと思っている。

(横尾)

次回は今年度3回目で最後の外部協議委員会となる。日程は、来年3月下旬を予定している。

以上で、プラザ外部協議委員会を閉会する。